【大草保育園】ソニー幼児教育プログラム 全国論文大会 優秀園受賞記念

ハテナの心を育てる

続・竹っておもしろい2012

見て・触れて・感じて・発見！ 子どものやる気を大切に！

大草保育園が、ソニー教育財団主催の「ソニー幼児教育プログラム」という論文大会で、見事「優秀園」に選ばれました。

これは「科学する心を育てる」をテーマに、全国の幼稚園・保育園・認定こども園から論文を募集し、優れた取り組みに対して支援を行うことを目的に毎年開催されているものです。

今回、受賞作の論文をもとに、大草保育園の保育方針・取り組みなどについて紹介します。

なお、本文中のイラストは園児に描いていただきました☆

「先生おはよう！今日も散歩行く？」

「お天気いいし、行こうか！どこに行きたい？」

「竹の山。」

「田んぼ。おたまじゃくし探したい。」

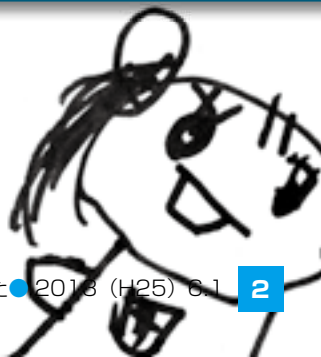
「僕は川に行きたいな。」

毎朝のように園内で飛び交う会話。園の周りには田畑が多く残り、少し歩けば幸田のすばらしい自然が、いつも子どもたちを温かく出迎えてくれます。

豊かな自然に囲まれた環境で、子どもたちが自然とたくさん触れ合いながら、存分に遊ぶことで、心と身体がバランスよく成長してくれると感じています。

大草保育園の保育方針は「見て・触れて・感じて・発見！」です。日々の保育の中で、子どもたちの言葉や行動をよく観察していると、「えっ、なんで？」「不思議」「すごーい」「私もやってみたい」と、子どもたちの好奇心「科学する心」＝「ハテナの心」がくすぐられている瞬間に気づきます。保育者はまず、「ハテナの心」に気づき、見逃さないことが大切です。そして、このような気持ちをつぶさないために、ていねいに話を聞いたり、一緒に考えたり、調べたり、時間と手間をかけたかかわりを心掛けています。

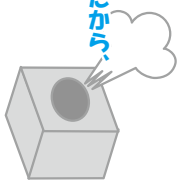
また、保育士間で「今日ね、こんな事があったよ。」「○ちゃん、こんなおもしろいことを言ったよ。」など、惜しみない声掛けをし、子どもたちの思いを職員みんなで共有するようにしています。



特集1 「ハテナの心」を育てる

手作りの空気砲で実験だー！

おもしろいと思った。だから、空気砲をつくりたい！



あるイベントで空気砲を目の当たりにした子どもたち。

「おーすごい。おもしろい。」
「煙のドーナッツが飛び出した。」
「僕たちもあのドーナッツ作ろ。」

「おもしろい・やってみたい」と子どもたちの『ハテナの心』がくすぐられた瞬間です。

子どもたちは段ボールを使って見よう見まねで空気砲を作り上げ、

「できた！煙ちょうだい。」

と、煙を要求。

でも、煙はありません。

「えー。なんか飛ばしたいよ。」

困った保育士は、紙コップを差し出してみました。

紙コップを穴に挿し、叩くと、「ポーン」と勢いよく飛び出したのです。

「おお。飛んだ。おもしろい。」

紙コップは思いのほか良く飛び、

「もっと大きく飛ばそうよ。」
「強く叩けばいいんじゃない？」

いろいろな叩き方を試します。

そんな中、

「なんで飛ぶんだろう。」

と不思議に感じ、穴をのぞきながら段ボールを叩いたのです。

すると、バサーッと風が顔にあたり、髪の毛がフワァーと浮き上がったのです。

思いがけない出来事に、

「空気がかかった！」

驚きとおもしろさで大笑い。

遊びの中で空気砲の仕組みに自然と気づくことができました。

なんで「ポーン」ってとんだんだろう ???

その後も何かを飛ばそうと、広告を小さく切り、乗せてみます。

「見てて。いくよ。せーの。」
「うわ。飛んだ飛んだ！」

広告がヒラヒラと浮き上がり、連続で叩くと、叩くたびに広告は紙ふぶきのように舞ったのです。

「すごい。メッチャおもしろい。」
「紙コップはね、ポーンと飛んでおもしろかった。紙はファーと浮き上がっておもしろかった。」

「へー。紙は浮いたんだ。」

「うん。ファーと浮いたんだ。紙コップより軽いから、絶対に飛ぶと思ったんだ。」

このように、煙のない中、自分たちで考え、工夫した物が、かたちになった事に意味があったのだと考えています。

子どもたちのためにユンボも登場！

ふしぎ！だから知りたいよ

地下茎の行先はどこ？

また、大草保育園では、竹と触れ合う活動を継続して行っています。この活動も3年目を迎えました。

2012年度は地下茎（ちかけい）に興味を示したのです。

「これなんだろう？」
「アリのトンネルかな？」
「なんだろう？と思うから、掘ってみようよ。」
「とにかく掘って調べよう。」

地下茎を掘り始めた子どもたち。

「これ、もしかして竹かな？」
「竹は上に伸びるよ。」
「じゃあ倒れた竹が埋まっているんだよ。」

想像は、膨らみます。

いたる所にある地下茎を、全部つながっているのかな？
地下茎はどの竹と、つながっているのかな？
子どもたちにとって、不思議がいっぱいです。

複雑すぎる地下茎を解明することはできませんでしたが、自ら掘って調べてみようとする気持ちや、実際に掘ってみる行動力。コツコツと根気よく掘り進める姿に成長を感じました。

なんだこれ？ どこに つながっているんだろう？

また、この活動の中で、地下茎から伸びる芽を見つけました。

「タケノコの赤ちゃんかな。」
「土の中で準備をしてる。タケノコになる準備。」
「これは何センチだろう。」
「棒を立てればいいんだよ。」

そう言うと、竹のヘラを立て、日付けを書きました。

「明日はこの位で、あさってはこの位。その次はここ。」
「大きいタケノコになったらうれしいね。お楽しみ。」

と、芽の成長を楽しみに、観察も始まりました。

この活動では、「タケノコはクニュと、曲がってのびる」とか、「この硬い、小さい所でつながっている」とタケノコの生え方を知ることができました。

子どもたちの「やる気」を育てたい

自然を愛する保育は、町内のどの保育園でも実施していることだと思います。私たちが大事にしていることは、子どもたちが興味を持ったもの、やりたいと思った気持ちを普段の生活の中からくみ取ること・その気持ちを大切にすること・子どもたちが身をもって体験できる方法を考えることです。

子どもたちの豊かな発想は、大人たちが考える範囲を超えていて大変なことも多いです。しかし、地域の人に相談すると「園児のためなら」と快くご協力いただき、竹林などでいろいろな体験をさせていただいています。また、間伐材でいすを作るときには、中学校の先生が知人に間伐材を提供してもらえるようにお願いしてくださり、地域の業者さんが間伐材の製材を、また別の学区の先生がとんかちの使い方やいすの作り方を子どもたちに教えに来てくださったりと、地域全体に先生がいるようで、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

体験させてあげることで、子どもたちが予想していたものとは全く違う結果になることも多いです。でも大草保育園の子どもたちは「じゃあ次はこうしよう！」「こうやってみるのはどうかな」と次々に新しいアイデアがあふれてきます。このような姿をみて、数字や言葉では言い表すことができない「目には見えない成長」を感じ、私たちも日々感動を与えてもらっています。

これからも子どもたちの「やる気」を大切に育てていきたいと考えています。

大草保育園
成瀬（なるせ） 英子（ひでこ） 園長

里山のすばらしさをどうか 忘れないで

家内が孫を保育園に迎えに行っている時に、先生と竹林やタケノコの話をしたと思うだよ。そこから「ぜひ子どもたちのために竹林を使ってください。」というかたちで毎年の交流が始まったね。

今、小学2年の孫が卒園したとき、子どもたちは「もうタケノコを掘っちゃいけない」と思ったんだろうね。ある日、竹林に入ると「たけのこをほらせてください」と木の枝に大きな手紙が掛けてあったよ。こちらもそわそわして連絡を待っていたものだから、あれはうれしかったね。

今はスーパーに行けば何でも手に入る時代ですから、タケノコでもなんでも「あ！本当はこんなふうになっているんだ！」と実際に目で見て知ってもらうのはとてもいいことです。

もともと幸田町は農業が盛んな町。この自然いっぱいの里山、「ふるさとの風景」をいつまでも忘れないでいてほしいし、私たちも子どもたちのためにこの景色をずっと守っていきたいですね。

「竹の山」のおじいちゃん
山下（やました） 学（まなぶ） さん

どうすれば「竹の山」のおじいちゃんにつたわるんだろう？

今年もタケノコが掘りたい！
お願い大作戦！

竹林へ行くと、子どもたちは、今までの経験からいつごろになるとタケノコが掘れるのか理解しています。

タケノコを待ちきれない子どもが、石ころを使って土を掘り始めました。道具もない中、懸命に掘り進める様子に関心していると、正当な考え。竹林所有者宅の園児が卒園し、タケノコを掘らせてもらえるのか不安になりました。

「タケノコ掘れたらうれしいよね。」
「うん。掘りたい！」

子どもたちと一緒にどうやったらタケノコを掘れるのか考え、竹の山のおじいちゃんに手紙を書くことに決めました。

「どうやってこの手紙渡すの？」
「持っていく。」
「どこへ？」
「竹の山。だっておじいちゃん、竹の山に来るじゃん。」
「会えるかな。」
「会えなかったら、置いてくる。」

なるほど。子どもたちがタケノコを掘りたい気持ちがひしひしと伝わってきました。

▲竹水の音を聴診器で聞く園児

お願い大作戦！

おじいちゃんへ。

たけのこをほらせてください。

おおくをほいくえんより。

「いいよ。」という返事がほしい。その気持ちが伝わってくる手紙でした。子どもたちは意気揚々と竹林に出掛けたのですが、おじいちゃんには会えませんでした。

「この木に手紙をしばろう。」

入って直ぐの一番大きな木の枝に手紙を貼り付けることにしました。

「絶対に、手紙見てくれるね。」

手紙ねぇ、入ってすぐの木についとったのに、作業するために下ばっか向いてたもんだから、気づかんかっただなぁ。
気づいたときには子どもたちが僕を探してくれていたんだね。

悪いことをしたなぁ（笑）

ところが、3日待っても返事はありませんでした。

「先生、電話きた？」

「まだよ。」

「風で手紙、飛んでないよね？」

「飛んでないか、見にいこうよ。」

不安そうな子どもたちと竹林に向かうと、手紙はありませんでした。

「やったじゃん！おじいちゃん、持って帰ったんだ。」

「でも、返事がないよ。」

「落ちたのかな。」

周りを探しても手紙はありませんでした。

「そうだ。今度は手紙をおじいちゃんの家に持っていこう。」

「この辺かな。」

「俺たちはこっちに行くから、あとの子はあっちね。」

右・左に別れ、おじいちゃんを探しましたが、見つかりません。その様子を見ていた家の人が伝えてくれたのか、子どもたちの熱意が通じ、後日、

「どうぞ掘りに来てください。」

と返事をいただき、子どもたちは思いっきりタケノコ掘りを楽しむことができました。

大人が連絡をとってしまえば簡単です。しかし、一歩引いたことで子どもらしい活動が展開されました。少し回り道をした作戦ではありますが、みんなの思いが一つになっているのを感じました。

ほっこり 大草保育園 NEWS

「ゆめのたね」で夢のような交流

平成24年度の大草保育園の父母の会が企画した「ゆめのたね」。この年の卒園児みんながそれぞれの夢を書いた手紙と花の種を風船にくくりつけ、卒園の日に全員で空に飛ばしました。

碧ちゃんから届いた手紙と写真

なんと、その中の一つ、平野愛奈（ひらのあいな）ちゃんの風船が千葉県まで飛び、千葉県の松苗碧（まつなえあおい）ちゃん（小3）が風船を拾って、愛奈ちゃんへお手紙を送ってくれました。手紙には「愛奈ちゃんのゆめのたねを拾ったよ。植木鉢に植えたから、花が咲いたらまた手紙をおくります」と書かれていました。手紙を受け取った愛奈ちゃんは「千葉県までとんだなんてびっくりしたよ。花が咲いたらおしえてね。楽しみにしています。」とお返事を書き、まさに夢のような交流が始まりました。父母の会会長の岡本尚子（おかもとなおこ）さんは「自然の中でかけがえのない体験をさせてくれた保育園のために何か恩返しをしたいと企画しましたが、驚きました。手紙が届いた子も届かなかった子も風船に込めた思いは一つ。いい思い出としてずっと残ってくれるとうれしいです。」と話してくれました◎

1年生になった愛奈ちゃん

だいじょうぶ！ ぼくたち やれるよ。見てて！

取り組み・全体を振り返って まとめ

大草保育園は、子どもたちの感じる心を大切にしています。

聞く耳を持ち、驚いた時・興味を示した時・不思議を感じた時・そして意欲を示した時。大人が先へ先へと進むのではなく、一歩引き「子どもたちは、どうしたいのだろう」と気持ちを尊重し、寄り添うよう、心掛けてきました。

年少児は、思いを上手に伝えられなかったりしますが、生き生きと活動する年中・年長児の姿を見ることで、「やれるかも？」と挑戦したい気持ちや、希望が膨らみ始めます。そして、「できちゃった。」と自信や自己肯定感が育まれます。このような経験を重ね、年長児になると、自信満々。「大丈夫、僕たちやれるよ。見てて」と『やりたい気持ち』にあふれ、自分の言葉で気持ちを伝え、自分たちで考えて工夫し、さらに協力して発展させます。その様子を見て、大人は感動すら覚えます。

当保育園が竹に関心をもち始めて3年。子どもたちの不思議に思う気持ち、知ろうとする気持ちの育ちとともに「大丈夫？」「一緒にやろう」など、友達を気遣った言葉が多くなっているのに気づきます。これらのことから、私たち保育士は『ハテナの心』を育むことのみではなく、友達を思いやる気持ちも総合的に成長していると実感しています。

問合せ 大草保育園 ☎62-0213

取材を終えて

園児の周りには、恵まれた環境が整っていた。自然しかり、保育士、地域の皆さんがみんなで子どもの成長を見守る環境がある。そんな安心できる環境ですくすくと育つ子どもたちには、自信がみなぎっている。「先生に相談したら、きっと一緒に考えてくれる」「自分が挑戦している姿を見てくれている」「失敗したって次の方法があるよ」そんな子どもたちのやる気を、決してムダにしないという想いがあふれている。園長先生の「保護者の皆さんにも本当に温かいご理解をいただいている」という言葉が物語るように、大草保育園の子どもたちには、大人たちも夢中にさせるような発想の豊かさ、行動力、観察力がある。これを「魅力」というのだと思う。

そんな子どもたちが、これからもずっと地域や人を深く結び続け、魅力いっぱいの大人へと成長していく姿を見るのが、今からとても楽しみである。

太陽は まぶしいね

せんせい、みててね

何があるのかな？

わたしもやってみたい！

これ、なに？

このにおい、おいしそう！

この2ページは、右上の太陽の部分を園児に描いてもらいました♪

風って きもちいいね

あっちには

子どもたちの
「ハテナの心」は
宝もの。

竹林だって
野道を歩くことだって
途中でくった道草だって
子どもたちにとっては
ぜんぶ ぜんぶ
冒険だ――